

立命館大学理工学部

学生員 ○高田 祐一

立命館大学大学院理工学研究科

学生員 卯田 宗平

立命館大学理工学部

正会員 笹谷 康之

### 1) 研究の背景と目的

深山幽谷、山紫水明の地など風光明媚と言われるところ、水によって光は多彩に変化し、美の意識を盛り上げ、深い感動を与える。四面を海に囲まれ、季節の変化と多雨に恵まれた日本にあって、水と陸との接触点に、美を追求することは、時代に合いかつ有意義なことであろう。

しかし、既存研究は水辺に関するものが数多くあるが、舟遊びに焦点をあて親水空間整備に対して深く論及するに至っていない。

そこで本研究は舟遊び・舟景のうつりかわりに焦点をあて、親水空間を創るための基礎的知見を得るために、以下の3点を目的とする。

- ①上代から近世・現代にかけての舟遊びの史的変遷を明らかにする。
- ②舟景と舟景が際立つ陸地景タイプとの関係性を明らかにする。
- ③陸地景別での舟景に対する意味付けを明らかにする。

### 2) 研究の手法

本論文の研究手法は、テキスト分析を主とする。テキストには舟遊び・舟景のうつりかわりに関する和歌、絵図及び、写真等を対象として、内容と構図が十分に結びつくようにする。

### 3) 舟遊び・舟景に関する資料の整理・抽出

まず、和歌分析には舟遊び・舟景のうつりかわりに関する歌を抽出する。上代では和歌2万数千首中431首、近世では和歌8万数千首中603首を抽出した。これを基に、目的①②③を明らかにする。

### 4) 舟遊びの史的変遷

3)で抽出した和歌1034首をもとに、上代から近世・現代にかけての和歌にみる舟遊びの史的変遷を明らかにした。その結果は以下のとおりである。

①上代では全国各地で舟遊びがされてきたが、近世になりその広がりには収束する。

②時代を追うごとに、舟遊びにおける楽しみ方に多様化が見られた。(図1参照)

| 時代     | 上代                                                                                | 近世                                                                                 | 現代                                                                                  |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 舟景の例   |  |  |  |
| 舟景のテーマ | 実                                                                                 | 情                                                                                  | 娯                                                                                   |
| タイトル   | 法人上人絵伝<br>播磨室津の港                                                                  | 大半錦絵<br>両国花火                                                                       | 神戸港<br>クルージング                                                                       |

図1：舟遊びの楽しみ方の移り変わり

### 5) 舟景と陸地景との関係性

本章では、すでに抽出した和歌を陸地景ごとに分類して、舟景と舟景が際立つ陸地景タイプを明らかにした。まず舟景に特徴のみられた陸地景に着目した結果、河川(山間流域・平地流域)・湖沼・海(単調地景・複雑地景)の5タイプで分類できた。

次に、5つの陸地景別での舟景の状態ごとに分類する。そこで、各々の陸地景において舟と共にどういった景物・季節・時間が多く詠まれるのかを明らかにする。

その結果、河川では①舟行・渡河②着岸・係留に、湖沼では①航行・出航・帰航②浮遊に、海では①航行・出航・帰航②浮遊③停泊・着船に分け、舟景と舟景の際立つ陸地景12タイプが明らかになった。(表1参照)

### 6) 舟景に対する意味付け

本章では、舟景の状態別意味付け(歌人が舟をみて歌を詠ったとき、その舟に対して何をみていたか、何を感じていたのかを指している。)を明らかにする。分析の枠組みは5)と同じく、河川(山間流域・平地流域)・湖沼・海(単調地景・複雑地景)

の陸地景に分けてそれぞれの意味付けの特徴を考察する。

分析対象は、3)で抽出した和歌1034首中、舟景に対して意味付けが見られる141首を対象とした。その結果以下のことが明らかになった。

- ①陸地景別での舟景に対する意味付けの違いを明らかにした。(表1右端)
- ②舟景の状態別での意味付けの違いを明らかにした。(図2参照)

表1：舟景と陸地景との関係性・舟景に対する意味付けのキーワード

| 陸地景区分 | 陸地景を特徴づける景観       | 舟景のキーワード    | 舟景の状態         | 景物例                                      | 意味付けのキーワード           |                        |                  |
|-------|-------------------|-------------|---------------|------------------------------------------|----------------------|------------------------|------------------|
| 河川    | 山間流域              | 【春夏秋冬の景】    | 《自然の移ろい》      | 舟行：上る、下る、鵜飼舟<br>渡河：渡し舟                   | 螢<br>紅葉              | 過ぎ流れ<br>自然の移ろい         |                  |
|       |                   | 【夕涼みの景】     | 《夏の暮れこそ涼し》    | 着岸：漕ぎ寄せ、浮かべる<br>係留：つなぎて                  | 螢<br>川辺の蘆花           |                        |                  |
|       | 平地流域              | 【光と闇の景】     | 《闇夜と月とかがり火と》  | 舟行：上る、下る、鵜飼舟、漕ぎ舟<br>渡航：渡し舟               | 渡し舟<br>かがり火          |                        | 緩やかな流れ<br>人間活動の場 |
|       |                   | 【渡し舟の景】     | 《渡し舟》         | 着岸：漕ぎ寄せ、浮かべる<br>係留：つなぎて                  | 舟呼人声<br>舟得人          |                        |                  |
| 湖沼    | 湖沼                | 【湖には山の景】    | 《山風》          | 航行：沖に漕ぎ行く、漕ぎわけて<br>出航：漕ぎ入る、出でる<br>帰航：かへる | 伊吹おろし<br>春の初風        | 湖沼における意味付けはその特徴が見当たらない |                  |
|       |                   | 【夏涼せば涼風の景】  | 《山風》          | 浮遊：浮かぶ、浮かぶ後の                             | 比良の山風、浜風             |                        |                  |
| 海     | 単純地景<br>【海、浜、汀】   | 【大海原の景】     | 《遠ざかる》        | 航行：沖に漕ぎ行く、漕ぎわけて<br>出航：漕ぎ入る、出でる<br>帰航：かへる | 浦の山<br>松の群立          | 舟を漕ぎ行けばそこに未来がある        |                  |
|       |                   | 【見上げれば夜空の景】 | 《波にゆられて、夢ごころ》 | 浮遊：浮かぶ、浮夜の                               | 心は月の御舟、夢             |                        |                  |
|       |                   | 【静寂の景】      | 《静を待つ》        | 停泊：とまり<br>着船：風待つ                         | 風待つ<br>潮待つ           |                        |                  |
|       | 複雑地景<br>【磯、岬、江、湾】 | 【見え隠れの景】    | 《波を介在物として》    | 航行：沖に漕ぎ行く、漕ぎわけて<br>出航：漕ぎ入る、出でる<br>帰航：かへる | 島隠れる舟<br>波間より出る月     | 舟を漕ぎ出して今なお見えぬ我が人生      |                  |
|       |                   | 【風の景】       | 《風の鼻先》        | 浮遊：浮かぶ、浮夜の                               | 風響き                  |                        |                  |
|       |                   | 【荒天の景】      | 《静を待つ》        | 停泊：とまり<br>着船：風待つ                         | 嵐おさまるを待つ<br>波立ちて舟つなぐ |                        |                  |

## 7) 親水空間を創るための提言

これまでの成果を踏まえ、舟遊び・舟景を主眼に置いた景観計画のあり方の基礎的知見を収集する。なお、対象地には琵琶湖を用いる。

その理由を以下に2点挙げる。

- ①「八景式鑑賞法に代表されるよう、近江には様々に景観資源がある。」
- ②「大水面とそれを取り巻く陸地景との構図が、舟遊びによって更なる魅力を生む。」

親水空間を創るためには、①『保全手法』と②

『創出手法』を分けて考える必要がある。

- ①『保全すべき景観資源』：和歌・絵図からの抽出
- ②『創出』：多様化した舟遊びの楽しみ方の利用。  
(Ex, 月見・花見・花火・螢狩り等)

魅力創出における舟遊びの利点を以下に挙げる。

- ①眺望性：鑑賞するにあたって障害物がない。景物全体を視野におさめることができる。
- ②スケール感：雄大な景観。山並み、陸地景の鑑賞といったスケールの大きな鑑賞法が可能となる。
- ③満喫感：混雑を回避できる。心的満足感。

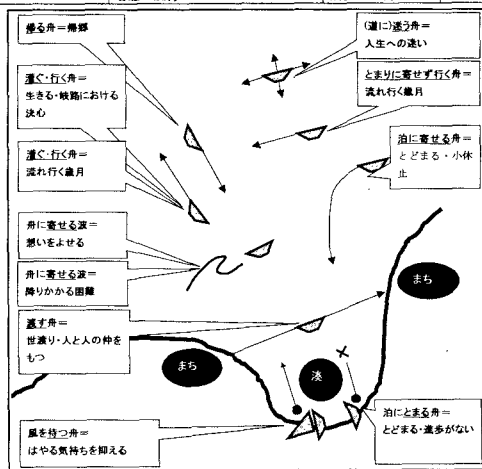


図2：舟景の状態別での意味付けの例

- ②舟景と陸地景との関係性について：

舟景が際立つ陸地景5タイプを明らかにした。また、各々の陸地景別で舟景を特徴付ける景観を12タイプ導き出した。

- ③舟景に対する意味付けについて：

陸地景別での舟景に対する意味付けの違いを明らかにした。また、舟景の状態別での意味付けの違いを明らかにした。

今後の課題として、以下の点が挙げられる。

- ①対象和歌首数を増やし分析の信頼性を高める。
- ②舟遊び・舟景を主眼とした親水空間整備への具体的な計画・デザイン手法。
- ③舟遊びの変遷に関する資料的裏付け。

## 参考文献

片桐洋一監, 平安和歌歌枕地名索引, 大学堂, 1971  
上野洋三編, 近世和歌撰集集成, 明治書院, 1985